



たか ひと

すみ 隆仁

経歴

昭和54年2月20日 千葉市生まれ
千葉大学附属小学校卒業
市川学園(市川中・高校)卒業
日本歯科大学新潟生命歯学部卒業
日本大学大学院総合社会情報研究科 修士課程修了
ジョージワシントン大学エリオット国際関係大学院
日米リーダーシッププログラム修了
歯科医師
元防衛省歯科医官

現在

自由民主党
千葉県千葉市美浜区第十二支部 支部長
保健消防委員会副委員長
超高齢社会調査特別委員会委員
保健所運営協議会委員、保護司等

議会活動報告 2023年 冬号

令和4年度 第4回 千葉市議会定例会において 市政に関する一般質問をしました。

TOPICS 障がい者福祉について

本市の障害福祉サービス事業所の数は、複数のサービス種別を併設する事業所をカウントすると、1,321箇所と過去5年間で約4割増。特に、グループホームの実利用人数は、平成29年度の593人から令和3年度には1020人と70%以上増加(箇所数は令和3年度に168箇所と過去5年間で2.1倍に増加)していると聞いております。障害者総合支援法に基づく各計画においても、地域の受け皿であるグループホームの整備の促進は重点課題とされています。近年、障がい者を介助する肉親の高齢化に伴い、親亡き後の支援としてグループホームの重要性は増す一方です。精神障害者の受け入れについても、地域移行の動きからさらに需要が高まっています。

また、グループホーム等支援事業の支援ワーカーについて、本市には設置されていないとのことですが、現状、千葉市グループホーム連絡協議会という民間の団体へ支援ワーカーへの依頼内容があるそうです。加えて、事業所の開設にはサービス管理責任者の確保が必要ですが、千葉県の行う研修の受講枠が少なく、受けられないというお話も聞いております。



意見・要望

障がいのある方々の「親なき後を見据えた支援」は、本市における今後の大きな重点課題の一つです。成年後見制度の利用促進、グループホームや障がい者基幹相談支援センターの整備、グループホーム支援ワーカーの設置が重要であると考えます。障害者の重度化・高齢化や「親なき後」を見据え、居住支援のための機能(例えば相談、体験の機会や場)を設け、緊急時の受け入れや対応、専門的人材の確保や養成・地域の体制づくりなどについても考えていかなければなりません。地域の実情に応じた創意工夫によりこれらを整備し、障がい者の生活を地域全体で支える円滑なサービス提供体制を構築していくべきです。本市におけるサービス管理責任者の研修会の実施、相談支援機能、緊急時対応の強化、地域支援機能、地域の体制づくりの強化のための各地域への支援ワーカーの配置を強く要望いたします。



Check!

グループホームとは・・・

障がいのある人が日常生活を送るうえで必要な支援や介護を受けながら共同生活を営むことができる住居のことです。



Q1 本市の精神障害者数の推移、精神障害者を対象とするグループホームの箇所数の推移と今後の見込み。

A1 本市の精神障害者保健福祉手帳所持者数は、平成30年度末で8,440人、令和3年度末で10,517人と、3年間で25%程度増加。また、精神障害者を対象とするグループホームは、平成30年度末時点で33箇所、令和3年度末時点で85箇所と、約2.5倍に増加している。ニーズの高まりから今後も事業所数の増加が見込まれる。

Q2 支援ワーカーを本市に配置していないのはなぜか。

A2 グループホームの職員からの相談やグループホームの新規開設に関する相談は、本市では該当する所管課や各区の障害者基幹相談支援センターが担っている。支援ワーカーの配置については、他の圏域での実施状況等を踏まえ慎重に判断する方針。

Q3 千葉県で実施しているサービス管理責任者の研修について、本市独自に実施できないか。

A3 国が定めるサービス管理責任者研修実施要項において、「実施主体は都道府県又は都道府県知事の指定した研修事業者とする」と定められているため、本市独自での実施は困難な状況。ただし、今後、千葉県、船橋市、柏市及び本市の障害福祉部局による四縣市連絡協議会等の機会をとらえて、受講者数を増やすよう千葉県に対し要望していく方針。